7　帯小の伴走者としての　考え方

児童の実態

自分には関係ない　誰かがやってくれる

・「学びの主役は自分たち」という意識の低さ

・与えられることに慣れてしまっている

人任せ

先生が導いてくれる

教師の課題

一方的になりがち

・落としどころを決め，誘導しがち

・児童がもつ「問い」を生かせていない

多様な考えを生かせない

「子どもの意識とともに，私たち教師側のスタンスも変化が必要」から 3 年前はスタートした

「子どもの主体的な生き方に向かう主体的学びを期する道徳科の授業においては，他の教科以上に支援・協働の立場を貫く「伴走者」の役割が重要になる。リードする位置と寄り添う位置を使い分けながらも，やはり道徳授業では共に考える「伴走者」の立ち位置が中心となるべき。」という考えを大切にしています。

この 2 年間で授業研を通して見えてきた伴走者としての教師の姿

児童の主体的な姿を引き出すために，まずは私たち教師から意識を変えていく必要があると考え，研究はスタートしました。この 2 年で見えてきた伴走者としての姿を，道徳はもちろん他教科，そして特別支援教育の中でも意識し，児童の主体意識を引き出すことを心がけています。

〈参考・引用文献〉
「道徳教育 9 月号　（2021 年 8 月　明治図書）